Aoyama Gakuin Archives Letter

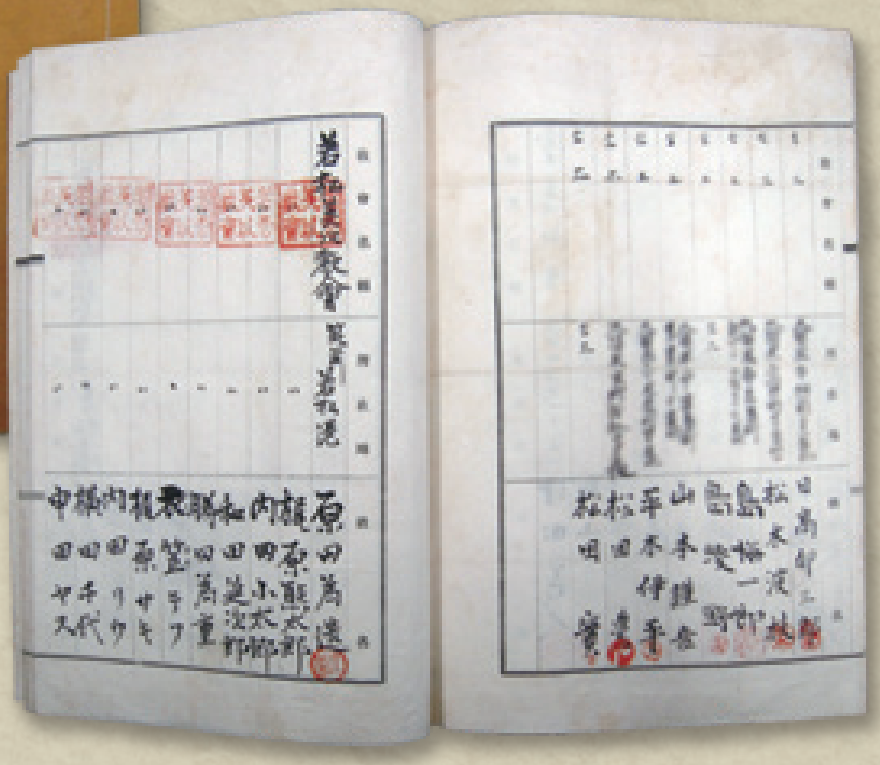
青山学院資料センターだより 2012.12

「日本メソジスト教会三派合同賛成者名簿」

明治の初め、開国後の日本にキリスト教各派は競って宣教師を派遣した。メソジスト派では伝道開始間もない頃から、一緒に宣教活動をすることを目指した。明治 40 年、同派のうちの三派が合同するが、この名簿は合同に賛意を示した人々 2,553 人の署名簿である。おそらく教会または地域ごとに署名を集め、郵送或いは持参し、最終的に全国のものを一冊にまとめたものと思われる。

名簿には北海道から四国、九州までのメソジスト監督教会、南メソジスト監督教会、カナダ・メソジスト教会の信徒本人が署名したものや代表者がまとめて代筆署名したものがあり、印鑑があるものないもの、拇印を押したものなどさまざまである。青山学院第二代院長本多庸一は長年この合同問題を積極的に推進し、合同後の日本メソジスト教会の初代監督に就任した。

175.5 丁、タテ 28cm、ヨコ 19cm



資料センター所蔵『護教』　氣賀健生 —2
故郷の喪失　阿部志郎 —4
資料センター日誌抄 —6
受入れ資料 —7
利用案内 —8

7 号

メソジスト教会機関紙『護教』

青山学院大学名誉教授　氣賀健生

今年、2012年は、青山学院日本人初代院長・日本メソジスト教会初代監督本多庸一の没後100周年に当り、数々の行事が催されましたが、この資料紹介シリーズでも、それらにちなんだ史料をとりあげましょう。

明治40（1907）年、それまでそれぞれ別個に伝道していたメソジスト三派（アメリカ北部メソジスト教会・アメリカ南部メソジスト教会・カナダメソジスト教会）が合同して日本メソジスト教会が成立し、本多庸一がその初代監督となりますが、彼は早い時期から、この狭い日本で各宗派に分かれての伝道は賢明でないと考え、既に明治20年代から将来の三派合同を構想し、そのためのメソジスト派の共通機関紙として明治24年『護教』を発行します。

『護教』の初代の主筆（編集長）には、明治・大正時代を通じて辛口の評論で鳴らした山路愛山が本多庸一の招きに応じて就任しました。山路愛山は当時静岡県で伝道していて、狷介（けんかい）にして不羈（ふき）奔放という一筋縄ではゆかない人物でありましたが、本多には心から心服していたということです。

こうして出発したのがメソジスト派の共通機関紙としての週刊『護教』であって、のち、三派合同に際しては、大きな役割を果すことになります。『護教』はメソジスト派ばかりでなく初期の日本のキリスト教界の実情を知るために貴重な文献であり、当時の息吹きを感じさせるまたとない論調に溢れています。

青山学院資料センターには『護教』はかなり良く揃っていましたが、残念ながら若干の欠号がありました。筆者は約40年前に関西学院資料室に呼びかけ、両者の欠号を相互に補充し合い、当時関西学院大学教授（のち関西学院長）山内一郎氏、当時関西学院資料室長（のち姫路教会牧師）田添禧雄氏の御協力によって、相互の欠号をほぼ埋めることができました。然しまだ若干の欠号が残りました。筆者は当時東京女子大学をはじめ、可能な限りの努力をして捜しまわりましたが、青山学院・関西学院の互換による整備を上まわるものは、とうとう発見できませんでした。

そこで一計を案じて、数世代続いているクリスチャンの地方素封家（そほうか）を当ってみることにしました。まず弘前近郊藤崎で本多庸一から直接薫陶をうけた家系を訪ねたところ、「ここらでは、新聞紙類はみんなリンゴの袋かけにしてしまうのでねェ」という返事。そうだ、津軽はイング宣教師がリンゴを導入した土地だったのだ、と今さら思い出しました。そして長崎は本多庸一終焉の地で、早くからメソジスト教会のひらけた土地、ということで、聊（いささ）かの期待を抱いて訪ねたところ、古いものは原爆ですべて失われた、とのこと。そのことに思い至らなかった己の迂闊さを恥じた次第でした。ともあれ、現存の状況の限りでは『護教』は青山学院資料センター並びに関西学院資料室に最もよく揃っていることは間違いありません。

山路愛山主筆時代の２～15号が欠けていますが、明治24年７月７日付の創刊号だけは現存しています。この年1891年はジョン・ウェスレー没後100年に当り、その式典の様子がこの創刊号に載っています。

「ウェスレイ氏百年祭は左の如く施行せらるべし
麻布鳥居坂町八番地麻布教会、演説監督　グードセル氏、コレル氏、本多庸一氏、イビー氏
司会平岩愃保氏」

16号からは揃っていますが、その16号の冒頭の論説には「基督教の成功及び其原因」とうたって

います。社説の最後は明治時代を彷彿とさせるような次の言葉で終っています。

「滔々たる世潮斯の如し…誰か風を移し俗を易ふるを以て自ら任ずる者ぞ。此任重くして此道遠し噫！」

欠号は次の通りです。2～15号。51、52、57、72、73、94、105、108号。そして125～295号（明治26年11月～明治30年）が欠号です。

大正４年１月15日号に次の公告が載っています。

「社告・次号の一部を伝道用といたします。護教社」

そして大正４年１月22日・1225号から『伝道』第１号が本紙『護教』の附録として、爾後毎月１回第一金曜日に求道者の手引きの役割を果しています。この『伝道』は60号（大正８年12月18日）『護教』1478号で終っています。

『護教』はその後次のように、しばしばタイトルをかえています。その理由は今のところ判っていません。

『教界時報』大正9年1月1日付、1479号から。

『日本基督教新聞』昭和10年1月1日号から。なおこの号に「日本の基督教徒29萬に達す」とあります。

『日本メソジスト時報』昭和11年４月17日付2294号から。

そしてこの『日本メソジスト時報』は、昭和17年１月29日付2578号を以て終刊となります。その前年即ち昭和16年11月24日に日本基督教団が成立し、メソジスト教会そのものが終焉を迎えたので、その機関紙も命脈がつきたということです。

この時『日本メソジスト時報』は、併行して発行されていた『基督教世界』及び『基督教報』と合併し、昭和17年2月5日付2579号から、新たに『基督教世界』として、成立したばかりの日本基督教団第二、三、四部の機関紙として出発しますが、これは昭和17年９月24日付2610号で廃刊となります。そして、『福音新報』・『るうてる』と合併して出版を続けるのですが、昭和19年4月11日号に「都合により次号から当分の間休刊」と公告を出し、事実上終刊となります。理由はキリスト教に対する政府・軍部の圧力、そして用紙の配給が途絶えがちで、出版事情が悪化したためでありました。

『護教』創刊号、明治24年7月7日発行

以上、『護教』史の概略です――と、ここまで書き終わった時、当資料センターの傳農事務長が、『護教』1411号（大正７年8月30日）紙上で、“古き護教誌に就て”という岡田哲蔵氏の記事を発見しました。そこでは『護教』１～295号が護教社にも所蔵がないことを嘆き、次のように呼びかけています。「この約６年分の間に故本多庸一先生の説教や演説の筆記などが幾らも載って居ることと信ぜらるるが今それを発見し得ぬ。先生の遺稿は今現に青山学院にて編纂中で既に略纏まり近きうちに出版せらるる予定であるが、このうちに右数年間の遺稿を逸することは極めて遺憾である。若し此等の古き護教誌を蔵せらるる方があって、そのうちの本多先生のものを載せた分を筆寫する間だけ借してくださるならば至幸である。拝借し得た雑誌は直ちに寫して必ず御返しする。」岡田哲蔵氏は本多先生の直弟子であり、昭和10年に当時唯一の本格的『本多庸一傳』を書かれた方ですが、この記事はその伝記の資料集めをされている姿を彷彿とさせるものがあります。以上、『護教』のエピソードです。

「故郷の喪失」

― 流れる河は、もとの水にあらず（方丈記より）―

社会福祉法人横須賀基督教社会館 会長　阿部志郎

30年前の５月５日のこどもの日に、学院から６年間通った青南小学校まで往復する。懐かしさがこみあげてくるかとわくわくしながら歩くが、なんの感慨も湧いてこない。かつての建物は失せ、草野球した広場もなく、無機的ビルが立並ぶ。悄然と心が沈む。

故郷の喪失は、大都市で育つ子の宿命なのか。子どもの時になじんだ色・形・嗅いの五感に響く風景としての故郷は、一変すると異郷となる。「故郷は遠きにありて思うもの」なのかもしれない。

私の通学路は、院長館から電話交換所、神学部女子寮、ハリス館、牧師館を右に、左に南北療、舎監宅、守衛所、30メートル先の東門を抜ける。そこの樹の下で複数の学生が空襲で犠牲になったのは痛ましい。ハリス館は、緑岡幼稚園のため神学部側に移築されたが、これら建物はひとつ残らず消えている。「クロバー、タンポポ花咲く」花岡山は、緑岡小学校設置のため崩されたが、私には郷愁がある。

周りに８つの洋館があり、アレキサンダー（以下敬称略）、ゲーリー、ミス･スプローズ、ミス･チニー、ミス・ベイレー、ヘケルマン、アイグルハート兄弟、ベリー、の名が浮かぶ。ゲーリーの息子ビリー、ダニー、ジョニー、と遊んだ。戦後ダニーが占領軍兵士として焼跡に立ったときく。4番館は女性宣教師館で、私の横須賀基督教社会館の前任者トムソンは、ここで結婚式を挙げている。

スプローズを留学中に２回ペンシルベニアに訪ね、E.T.アイグルハートは数回様子をみに来て下さり自宅にも招かれた。アイグルハートを慕う卒業生達の募金で、戦後アイグルハート館（現短大付近にあった）が捧げられ若い宣教師達が居住し、ここからハーカーが日本の MRA運動を興したのを知る人はすくない。

C. アイグルハートは、ユニオン神学大学、ゲーリーは南メソジスト神学大学に教授として招聘され、ミス・オールドリッジは哲学博士。大学教授級の人々が宣教師として送られたことに瞠目する。

A.D.ベリー先生と幼少の頃の筆者（一番右）

ベリーの家に齋藤實総理が訪問したのを、警護のサイドカーオートバイをみに行ったので記憶している。上層部の人々と交友があったのだろう。日曜日に野球をして先生に叱られたが、独身のピューリタンであったに違いない。怖くて優しい先生だった。

アレキサンダー家で、私達家族がクリスマスを祝う慣例は、両親がこの家で見合いをしてからしい。1949年は父、1950年は私、1951年は妹－伊藤いく代（中等部旧教員）が、カナダ国境に近いタイコンダロガでアレキサンダー夫人とクリスマスを共にする。私が「おばあさん」とよんだこの女性は、日本に「母の日」を創設している。

戦時中、米国に帰るのを余儀なくされて空いた宣教師館に、村上精一、倉長久、尾崎信二等が移り住んだが、これも焼けて跡地にバラックが建ち、ウィルソン寮（神学部寄宿舎）の跡には亀徳正臣が仮寓していた。

石坂正信院長退任後、小学校６年間を院長館に住まう。大きな家で外国人客を度々接待し、広い庭では教職員のティパーティを催した。

構内では、薮内敬之助から古坂嵜城、村上精一高等学部長、中学部長川尻正脩から都田恒太郎、比屋根安定図書館長、三上豊から亀徳正臣舎監、勝部武雄学院教会牧師が住民で、川尻、勝部の息子が幼な友達。神学部（現本部）の東側入口に小島夫妻がいて可愛がってもらった。神学部を建築した清水組の中興の祖・清水釘吉の顔を覚えている。

そういえば、森永太一郎の葬儀が中学部講堂

（現ガウチャー記念礼拝堂の場所にあった）であり、生徒にキャラメル一箱を配ってくれたのを思い出す。

父が院長を辞し、本来ならメソヂスト教会本部に隣接する監督舎に移る筈が、家族が多かったからか八幡通りに引越す。メソヂスト本部は、青学会館に変貌している。

父義宗が、伯父本多庸一の書生として靴磨きしながら学んだ「神学部を二番で卒業した」と自慢げに言うので「卒業生は何名？」と聞くと「２人」。「ではビリですね」と私。呵々大笑の父。一番は豊田実。偶々豊田院長に会いにいった時、ガウチャーの銘板文が届けられた。簡単そうな英文を辞書で引いて確かめているのに感銘を受ける。一流の英文学者の姿に。―。

私自身について。中学部時代テニスに熱中し、全国選手権にも出場したが、パートナーが戦死したので、以後ラケットを手にしていない。

高商部で大木金次郎教授退任に上級生（兄雄三・学院常務理事も）がストライキを起こし軍部に睨まれ私学「統合令」で明治学院に移る。結果的に統合は一校のみで、明らかに弾圧があったと思われる。

笹尾洋二郎、三神勲、石井次郎教授とともに学院を離れたが、結局は合併でなく明治学院への吸収だった。院長をはじめ中学部と女学部全生徒が並び、校門まで盛大に送り出された。この壮行式が私にとって学院との訣別となった。その後、古坂、気賀重躬、亀徳、桜井信行が私に声をかけて下さったのに、キリスト教学科の兼任講師以外に学院に奉仕する機会がないのは申訳ないと思う。中学部卒業生の青盾会を数年間引き受けたのがせめてもの罪ほろぼしか。

小野徳三郎院長は、横須賀の海軍機関学校出身で、学生時代にミス・フィンチに導かれ、最期は横須賀の衣笠病院で天の故郷に帰った。

古坂院長は退任後、格下げともいうべき横須賀学院長に就任する。戦後、横須賀に学院の大学分校が誘致され安井正男が責任者であったが、本校復興中心になり撤退したため横須賀学院設立の運びとなったことに、贖罪の気持を抱いた立派な方だった。

留学中、古田十郎中等部長から送られた生徒の絵を、キッチン（学院宣教師）ら友人が買い上げ、中等部に送金した。「可愛い」と友人達が部屋に飾って喜んでくれたので善行だったと慰めている。

阿部義宗院長（後列左）と家族写真（前列右から3番目が筆者）

子どもの時から、米山梅吉は憧れの存在だった。小学校５，６年頃、元旦早朝に父の代理で米山梅吉、福井菊三郎（三井重役）、小谷清（間組社長）邸に年詣に行かされた。私の通学路でもあった。と言っても名刺受けに名刺を置くだけ。ところが、福井邸に和服の家令が座っているので慌ててペコリと頭を下げ逃げ帰った。

日本に信託業務を導入し、三井信託社長であった米山は、退職後退職金をなげうって夫妻で小学校、幼稚園（現在の初等部、幼稚園）を建設した。寄付を仰がず、教員給与に書画骨董を処分し、令息桂三氏は「母は質入れをしていた」と語る。春子夫人に戦後２回お会いしたが熱心なクリスチャン。三井財閥の重鎮なのに一小学校長として世を終えたことに心を動かされ、私は米山をモデルに実業人を目指し商科大学に学んだのに道半ばで挫折し、全く異なる福祉の世界に身を投じたが、今なお米山のイメージを追い続けている。

思い出はつきないが、読者からみれば老人のくり言にすぎない。

歴史は過去と現在との対話と歴史家はいう。それでは昔話しになんの意味があるのか。将来に向けて展望を拓くなんらかの手がかりがあるのか。読者に委ねるほかはない。

ただ、100年以上生き続け、戦争の荒廃から見事に立ち直った学院の力の源はなにかに思いを致したい。この精神を受け継ぐ後輩に期待し、主の祝福を祈るや切なものがある。

クロバーの　思い出の跡　ここらまで

2012年度前期

日誌（抄録）

4月

本多庸一先生記念資料展示入館者数　計89人

閲覧（青山）

・一般の方、野球部関係資料
・一般の方、本多庸一先生像制作者関係資料
・大学名誉教授、教会史ほか
・元職員、校史調査のため学院史資料（３回）

レファレンス

７件（本多庸一が「Manを出さしめよ」の言葉を書き送った相手は？　ほか）

来室（青山）

・教員ほか、明治期基督教図書データベース作成作業（３回）

来室（相模原）

・本部広報部広報課長、資料センター見学のため

業務

４/３（火）は強風のため相模原は午後１時、青山は午後３時にて閉室
・日本文学科合同研究室（相模原）より中原中也の詩の書額を移管
・キリスト教系新聞に本多庸一資料展の宣伝記事掲載を依頼
・本多庸一の書の情報５件の対応
・大学広報入試センターより校正依頼
・事務長、本多庸一先生召天100周年記念プロジェクト会議出席
・日本文学科合同研究室（相模原）に日本文学会会報欠号補充依頼
・事務長、ミュージアム検討委員会出席
・事務長、学院主催企画　改訂版『本多庸一』編集会議出席

5月

本多庸一先生記念資料展示入館者数　計112人

閲覧（青山）

・元教員、英語・英文学関係資料
・元職員、校史調査のため学院史資料（４回）

閲覧（相模原）

・牧師、メソジスト関係資料

レファレンス

７件（各部の現在の校章について、それぞれいつごろできたか、デザインの意味などが知りたい　ほか）

来室（相模原）

・大学教員、資料センター見学のため

業務

・本多先生記念展示取材…陸奥新報社東京支社
・胸像復刻業者より本多庸一先生像石膏型返却
・５/19（土）本多庸一先生召天100年記念会受付、会場での展示
・専門職大学院より、1991～2004年頃の国際マネジメント寄附講座資料（録音テープ・画像等）移管
・全国大学史資料協議会東日本部会総会出席

6月

本多庸一先生記念資料展示入館者数　計33人

閲覧（青山）

・校友、『青山学報』
・校友、『来日メソジスト宣教師事典』ほか
・本部広報部、『剣道塾長笹森順造と東奥義塾』
・本部法務課、学院史資料
・元職員、校史調査のため学院史資料（４回）
・一般の方、H. H. Coates関係資料閲覧

閲覧（相模原）

・教員、学院各部校章バッジ等

レファレンス

７件（海岸女学校はTerm制か、Summer Termは何月から始まったか　ほか）

来室（青山）

・教員ほか、明治期基督教図書データベース作成作業

来室（相模原）

・本部広報部員２人、資料センター見学のため

業務

・初等部に隠れキリシタン遺物送付（修学旅行のための教材）
・北陸朝日放送より、建築中の勝田館の写真を番組で放映したいとの申し出あり。
・本多先生記念展示取材…東奥日報社東京支社
・６/15資料センター運営委員会　16時～17時
・事務長、本多庸一先生召天100周年記念プロジェクト反省会出席
・事務長、ミュージアム検討委員会出席
・事務長、学報編集委員会出席

7月

本多庸一先生記念資料展示入館者数　計33人

閲覧（青山）

・本学教員、『青山学報』
・大学名誉教授、本多庸一個人資料ファイル
・本部法務課、学院史資料
・元職員、校史調査のため学院史資料（５回）
・一般の方、『美以教会年会記録』ほか
・一般の方、『Church and Mission in Japan』

閲覧（相模原）

・大学教員、『マクレイ博士伝』、『来日メソジスト宣教師事典』

レファレンス

５件（同窓会にて在学当時の旧校歌を歌いたいが楽譜はあるかほか）

来室（青山）

・一般の方

業務

・本多庸一先生の書を修復するため業者に鑑定を依頼
・新人物往来社より、「宣教師が和装で碁をしている写真」の掲載希望あり、許可
・一般の方より、寺崎武男画伯の描いた遣欧少年使節団に関する絵画についての問合せあり
・弘前市立郷土文学館担当者、『本多庸一』と大学17号館の本多先生の胸像写真ご希望。図書は10冊送付、写真はデータにて提供
・事務長、学院主催企画　改訂版『本多庸一』編集会議出席
・相模原キャンパスのオープンキャンパスにて「地に播かれた三粒の種」のDVD上映
・事務長、ミュージアム検討委員会出席
・『Aoyama Gakuin Archives Letter』第６号発行
・大学図書館本館に2011年度受入図書段ボール４個分送付、OPAC登録のため

8月

本多庸一先生記念資料展示入館者数　計40人

閲覧（青山）

・一般の方、『Christian Movement in Japan』
・元職員、校史調査のため学院史資料（２回）
・校友、『青山学院90年史』『青山学院120年』
・本部広報部、『本多庸一先生説教集』

閲覧（相模原）

・他大学名誉教授、伝記調査のため『青山女学院一覧』ほか

レファレンス

８件（青山学院教会の創立について　ほか）

業務

８月６日（月）～９月17日（月）夏期勤務期間

・夏期休業中の本多先生資料展示公開のため、週２日アルバイトを雇用
・横浜上原教会より、マクレイの肖像写真、美會神学校校舎写真等を故斉藤秀夫先生遺稿集に掲載希望あり。許可

9月

本多庸一先生記念資料展示入館者数　計10人（３月24日展示開始以降の累計　369人）

閲覧（青山）

・大学教員、『青山学院一覧』
・牧師、メソジスト教会の英文教義條例
・一般の方、『Christian Year Book』

閲覧（相模原）

・他大学大学院生、博士論文のため大学開学以来のキリスト教概論の講義内容
・一般の方、『東洋英和女学院100年史』

レファレンス

７件（緑岡小学校、緑岡初等学校の当時の地名　ほか）

来室（相模原）

・アイスホッケー部OBの方、資料ご寄贈のため
・大学教員、市民講座用の資料の所蔵確認のため

業務

・宗教センターより、図書ダンボール２箱を移管
・本部広報部を通じて、港区広報より、宝生院に関する記述内容の確認

指定寄付

資料センターの活動費として、1965年青山学院大学経済学部商学科K組卒業生有志の方たちより　20,000円

2012年度前期受入れ　資料

（学内部署からの資料は除く）

寄贈（抜粋）

●三好彰様より、「宮崎元立と英学」三好彰著　佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要　第５、６号（平成23、24年）抜刷
●堀内信雄（校友）様より、本多庸一揮毫の書軸「ヨシュア記」
●斎藤進様より、本多庸一揮毫の書額　「禮用以和貴」
●伊藤富美子様より、石井晟一の青山学院卒業証書　明治32年
●東洋英和女学院様より、『Canadian Woman Missionaries at Toyo Eiwa in Japan 1882-2006』 Translated by Seiichi Ariga and Wayne Irwin.　2012年
●古賀節子（校友・大学名誉教授）様より、高等部関係写真２枚
●樽松かほる様より、『清水安三・郁子研究』第４号　桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」代表・樽松かほる編　2012年３月
●青山学院大学新聞編集局OB会様より、「余韻」 第１号～第58号（終刊号） 1982年７月～2011年10月　青山学院大学新聞編集局OB会
●滝澤民夫様より、「増野悦興の教育活動―新島の遺志の体現―」滝澤民夫著　同志社大学同志社談叢32号（抜粋） 2012年３月、「川越中学校初代校長　増野悦興の謎（10）」滝澤民夫著　川高同窓会報（第68号）
●仁木達雄様より、本多庸一書掛軸の写真「主の祈り」（漢文）
●兼松幸子（校友）様より、「本多庸一の伝道日記を読む」平成13年度弘前市立図書館主催古文書解読講座資料
●大学グリーンハーモニー合唱団OB会様より、「グリーンハーモニー OBニュース」No.45　2012年３月
●阿部志郎（校友）様より、『黒船の再来　米海軍横須賀基地第４代司令官デッカー夫妻回想記』 横須賀学の会著　2011年８月、青山学院関係写真多数、「AOYAMA GAKUIN TOKYO」1957、「亀徳先生の学問的研究について」阿部志郎著　1955年11月、青山学院高等部クリスマス礼拝順序　1957年12月、ほか
●津田道夫様より、『津田仙の親族たち』 津田道夫著　2012年３月、「津田仙家族図(2012年4月)」 津田道夫作成
●髙木昭様より、『美術批評の先駆者、岩村透　ラスキンからモリスまで』田辺徹著　2008年12月、「岩村透年譜」コピー一噌連編　昭和８年８月ほか、岩村透（校友）に関する資料多数
●寺崎裕則様より、「イタリア圖書46」伊藤道一・林杲之介・高橋満編　（青山学院所蔵、寺崎武男画「キリシタン文化史的絵画」の解説あり） 2012年４月
●横溝達夫（校友）様より、「岩の会だより」No.22～24　大学第二部宗教部岩の会　2012年６月～９月
●高等部同窓会様より、「青山学院高等部同窓会報」vol.63　2012年６月
●雨宮剛（校友・大学名誉教授）様より、『もう一つの強制連行　謎の農耕勤務隊―足元からの検証―』雨宮剛編著　編集協力者：栗林一路(校友)、田村忠幸(校友)　2012年５月、ほか
●嶋田順好（大学教授）様より、「小野友五郎日記　１～３」1867年　（コピー資料）
●本多家様より、「本多庸一親族・関係者の集い」（小冊子）2012年５月
●青山学院管弦楽団楽友会様より、青山学院管弦楽団第100回記念定期演奏会プログラム　2012年５月
●小林宏光（校友・職員）様より、青山学院50周年記念基金募集「映画・劇・音楽の集ひ」プログラム　主催：青山学院男子生徒一同　後援：青山学院校友会　1934年６月、「AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY ESTABLISHED 1874」のロゴ入り本型灰皿　製作年不明（大学卒業記念と思われる）（次頁写真①）
●山北宣久（院長）様より、『今日は何の日？　キリスト教365日』山北宣久著　2003年12月
●有隣堂様より、『横浜外国人墓地に眠る人々　―開港から関

東大震災まで―』斎藤多喜夫著　2012年７月
●Karin Johnson（中等部教員）様より、『Soper's Elocutionary Readings』H.M.Soper編（復刻版、ドーラ･スクーンメーカーの文章あり）
●校友会青盾会事務局様より、「蔦の輪」校友会青盾会会報特別号　2012年６月
●北室南苑様より、テレメンタリー2012「改革の荒波をこえて～ロシアの子供800人を救った日本人船長～」DVD（勝田銀次郎資料）北陸朝日放送　2012年６月25日放送
●大学文学部英米文学科同窓会様より、会報　Aoyama Sapience 第15,16,20,21,24,27号 2006年６月～2012年７月
●新人物往来社様より、『歴史読本』2012年９月号
●荒井尉江様より、「AOYAMA JO GAKUIN ILLUSTRATED SKETCH 」（英文青山女学院一覧）1901年
●在原義男様より、「聖書を読んだサムライたちⅢ―時代を駆け抜けた三人のなでしこたち」DVD　2012年８月
●大学体育会アイスホッケー部OB会様より、大学体育会アイスホッケー部創部80周年記念DVD及びブランケット　2012年
●大学文学部日本文学科同窓会様より、会報　「ひいふうみい」VOL. 9　2012年９月
●青木悦子（校友、筆名小町圭）様より、『句集　鬼は内』小町圭著　2006年６月、ほか
●大学電気電子工学科同窓会事務局様より、「青山学院大学電気電子工学科同窓会報」創刊号～第16号　平成９年～平成24年
●他大学・学校　年史・紀要類

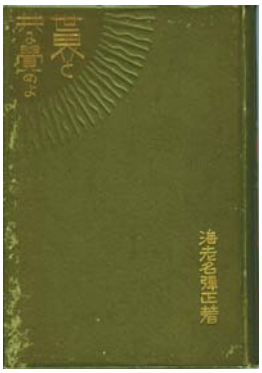
購　入

●『上毛孤児院』藤巻新助編、上毛孤児院、明治39年
●『ウエスト女史遺訓』竹越竹代著、東京婦人矯風会、明治26年（写真②）
●『条約改正及内地雑居　一名　内地雑居尚早論』國友重章著、内地雑居講究会、明治25年
●『軍人必読　養勇論』本多庸一著、明治28年（写真③）
●『宣戦詔勅俗解問答』本多庸一著、清韓事件基督教徒同志会、明治27年
●『一般の教育に関する文部省訓令第十二号に対する運動顛末概畧及意見』本多庸一著、教文館、明治32年
●『世界と共に覚めよ』海老名弾正著、廣文堂書店、大正６年（写真④）
●『人物短評（再版）（警世叢書第参）』松村介石著、警醒社書店、明治35年

写真① 灰皿

写真②『ウエスト女史遺訓』

写真③『軍人必読養勇論』



写真④『 世界と共に覚めよ』

青山学院資料センター利用案内

資料センターは、青山キャンパス再開発計画に伴い、2005年11月17日に間島記念館から2箇所に臨時移転いたしました。移転期間中、常設展示はお休みします。閲覧希望の場合は余裕を持って連絡してください。

★資料の閲覧曜日、時間
特定の研究目的を持って閲覧を希望される方々に青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開。
・相模原キャンパス　N棟N403
　月曜日～金曜日　9時30分～17時
・青山キャンパス ウェスレー・ホール 2階（完全予約制）
　火曜日　9時30分～17時
　土曜日　9時30分～13時
（2キャンパスとも、昼休み　11時30分～12時30分）

★休室日
日曜日、国民の祝日、クリスマス、年末年始（2012年12月25日～2013年1月5日）、その他青山学院が定める休日

★お問い合わせ・連絡先（2キャンパス共通）
TEL：03-3409-6742　FAX：03-3409-8134
（相模原）〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1
（青山）〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL　http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/

資料センター運営委員

（任期2011年4月1日～2013年3月31日）

院長（職務上）	山北　宣久
常務理事１名（職務上）	杉村　佐壽（2012年10月1日～）
学院宗教部長（職務上）	嶋田　順好
大学図書館長（職務上）	三村　優美子
大学　教員１名	清水　信行
女子短期大学　教員１名	谷本　信也
高中部（高）　教員１名	佐藤　隆一
高中部（中）　教員１名	小田井　孝
初等部　教員１名	窪田　靖
幼稚園　教員１名	川島　祥子
総局長（職務上）	岸　實
資料センター事務長（職務上）	傳農　和子

資料センタースタッフ人数

専任　2人
派遣　2人
パートタイム　1人

Aoyama Gakuin Archives Letter
青山学院資料センターだより　7号
2012年12月25日
青山学院資料センター編・発行
印刷：三美印刷㈱
1,500部